

# 日刊 勤労千葉

82-4-2  
No.1008

### 国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)  
(鉄電)二九三五・六(公衆)四五二七・七二〇七

## 誠嶋田・マル革 が「証言」

# 「4.17津田沼襲撃は知らない」

## 「6.12デッキ上げ事件」が5回公判

3月30日、「6.12デッキ上げ事件」が5回公判が、千葉地裁20号法廷で開かれた。早朝からの勤労体制により、6枚の傍聴券獲得闘争に勝利し、前回同様26名の傍聴をみちとった。が5回公判は、勤労千葉組らかとなった。

### 「職場から暴力をなくすために告訴した」とうそをかく嶋田誠

今回の公判に於て、マル革・嶋田誠は、不当にも起訴された3名について、「暴力はふるっていない」「よくわからなかった」と言いつつ、マル革弁護士・渡辺千古の作文に従い、現場に3名が居た事がすなわち暴力をふるったことだという、更に許せない「証言」を行った。

更に許せない事は、79年4月17日の津田沼支部に対する、学生マル革と勤労本部「マル革」神保大久保らを先頭とした、いわゆる「4.17襲撃事件」について、嶋田誠が「知らない」とうそをいいたことである。嶋田誠がいかにごまかそうとしても、当日、嶋田が武装したマル革部隊を手引して、労働安全衛生委員会を閉鎖中の多くの支部役員が一堂に会している所に襲撃をかけたこと、カヤ・バル・ペンキ・青竹・石筆などをふりかざして、庁舎を破壊し多数で乱入し、片岡支部長の頭蓋骨々折をはじめ、支部役員全員に重軽傷を負わせたことは、あまりに周知の事実である。「職場を正常化するために」告訴した、などとウソをひき、ひらき直っているのである。

織破壊攻撃の尖兵として「コロビ屋」を演じた告訴人「マル革嶋田誠」に対する反対尋問が行われ、勤労千葉弁護団の鋭い尋問により、「デッキ上げ」性はますます明らかとなった。

ここに彼らのファシスト性をはつきりと見る事ができる。勤労千葉をつぶすために、暴力と金を使い、当局を使て処分させ、スト破りを行ない、ついに「6.12暴力事件」をデッキ上げ、権力に労働者を売り渡したのだ。そして今、「働こう運動」の積極的推進を通して、労働者総体を産業界報国会運動へ引きずりこむ、その尖兵として登場してきているのである。

これを国鉄当局・権力の手先といわずして何というのか。勤労「本部」マル革反勤分子こそ全労働者の敵であり、彼らの反労働者的本質を公判の中においても、とことん暴露してやろうではないか。

### 「千葉地本」を指導し、引きまわす、他「地本」マル革分子

警察権力に守られながら、地裁前に表われた「本部」は、いつも通り竹内を先頭にゆずかばかりの関東からの勤労者で全く元気なく登場し、勤労千葉の怒りのシユプレヒコールで完全に消沈していた。前回は、デッキ上げ「千葉地本」の勤労者は9名であったが、今回はまた減少してゆずか7名というさびさびで、後の方にかくれんぼうに身をよせ合せて下をむき、一言の声も発せられないという放心状態を呈していたのである。

### 千葉運転区で報告集会

公判終了後、直ちに、場内を千葉運転区講習室に移して、全員でが5回公判の報告集会を開催した。弁護団から、公判経過および嶋田の矛盾だらけの「証言」内容の具体的暴露等が報告され、今後の公判闘争の勝利にむけた展望と決意がのべられた。

続いて、三里塚現地からかけつけてきてくれた、反対同盟の宮本さんから、反対同盟にかけられてくる権力、マル革の攻撃に対する激しい怒りと、今後も、勤労千葉と女に、最後まで闘う発言をうけた。最後に、不当起訴された3名を代表して、篠塚君より、勤労者に対するお礼と、デッキ上げの張本人「マル革嶋田誠」・「斉藤吉」の悪行を叩き潰すことを誓う。この「働こう運動」なる産教化の尖兵マル革反勤分子を一掃するまで、闘いぬくとの自信に満ちた決意表明をうけ、次回公判闘争に向け、全員で意気高く団結がンバローを行って、終了した。

### 次回公判闘争(が6回) 4月22日(木)を叩こう、

### 女歩速報

## 年度末手当

支払額「〇四月分」  
支払日「四月十二日」  
**結**